

波紋

1991 10 第76号



モーリン主催・ソフトボール大会

3チームに分れて試合をしました。3チームとも1勝1敗の五分五分でした。
得失点差の結果、優勝は、常務チームにきまりました。
なお、女子社員・パートナーさんの参加もあって、とても楽しい試合でした。

◎勝負

常務チーム 1勝1負
 $(12+2)-(2+10) = +2$ 優勝
 稲葉チーム 1勝1負
 $(4+10)-(12+2) = \pm 0$ 2位
 社長チーム 1勝1負
 $(2+12)-(12+4) = -2$ 3位
 ホームラン
 孫田・坂本・伊東²・下垣・大木

●第一試合					
常務チーム	3	0	2	7	
社長チーム	0	2	0	0	
●第二試合					
社長チーム	3	0	7	1	1
稲葉チーム	0	0	3	0	1
●第三試合					
稲葉チーム	2	3	4	1	0
常務チーム	0	0	1	1	0

『交差点』

「病いは気から」

先日、生まれて始めて病院へ入院しました。一泊二日の検査入院で、たいした事ではありません。医者から異常なしと言われました。本人としては十分自覚症状あり、と思っていたのだが……………。

原因不明・年令からきているものか、精神的なものか、自分でも良くわからない。

結婚式での寄せ書きに、いつも書くのは「健康第一」です。幸福の基本は健康であり、病気は人間から幸福を奪い去る最大の敵だと思います。

肉体的病気・精神的病気、この二つからいかに身を守るか、又どうやって病気を克服するか。このことが人生にとって重大な事です。いまの世の中、病気にならない人は少ないと思う。ですから、早期発見と早期治療に皆さん心掛けましょう。

森 信之

トシ君の一方通行

「愛とお金」

高山出張から帰り、自宅でテレビをチラリ見ていると、特集番組とやらで愛をテーマにインタビュウやら何やらやってた。最初は愛とお金とどちらが大事ですかとのインタビュウでありとあらゆる人達が真面目に答えていた。誰もオイラみたいに「比較になるか馬鹿！」と答える品の悪い人はいなかった。次に一番愛を感じる時はいつですかというインタビュウ。これもおもしろくって、世代別である。一番最初は若い独身世代で、つまり世の中の事が全然分かっていない、いわゆるガキで、本当にアホな事ばかり言つとつたなあ。愛という本当の意味が分かる迄「とにかくお前等はひたすら働け」とオイラみたいに品の無い人は少ないようだ。愛の意味を分かんずに（難しい）お金の尊さを理解出来ずに、彼に抱かれている時が一番幸せ等と、ブランド物をチャラチャラしてインタビュウに答えている「オイ！そのガキ！そのお前の体型、頭の中身に似合わないそのブランド品は誰に買ってもらったか」お金は大切だけど、愛はもっと大切だよ、快樂追求性交大好勉強嫌漫画好読書嫌頭空型のカギに言う、愛だ金だと答える前に一生懸命に自分自身と闘いなきい。本日はこれまで。

木村英利

森松クインテット

「健康診断」

七月から九月にかけて、社員の大半が近くの医院にて健康診断を受け、結果が出ましたので、健康についていろいろ考えている時、一つの記事が、目に付きました。「健康の「ツボ」と経営の要諦は同じ」というものでした。企業経営で最も大切なことは、事業運営においてその「ツボ」を外さないこと、時代や社会環境の変化や流行の移り変わりはあっても、ヒト・モノ・カネ・情報・企業は残存心の「ツボ」さえ外さなければ、企業は残存出来る。又、人間の健康を保持する基本は、①偏りのない栄養を取り、②過不足のない睡眠・③適度な運動・④ストレス解消、とのこととす。でも健康増進も経営の強化も、インスタンで近道となる方法はなく、小さな期本の積み重ねをたえず心がけなければならぬ。そして外見には、体も大きく筋肉モリモリであつても、その中身が真に強いものになつたかどうかは、逆境に直面した時、はじめてわかることである。

健康の基本は、前記した4項目ですがそれも又、簡単で手軽な方法はありませんので毎日の積み重ねがないと健康保持は出来ません。今日の日本社会は、モノがあり余る状態にあり、おカネを出せば何でも手に入るかの錯覚がないでもありません。しかし、健康（勿論経営も）については、カネやモノだけで目的は達成出来ない。やはり日頃の心がけが大事になります。ただし、いくらか心がけが良いと言つても、体質の強化や改善がスムーズになされとは限らない。何事にも「真面目さ」は大切ですがやはり効率性や効果的という点を忘れてはならない。つまり、それなりの知恵を働かせる必要がある。それがすなわち「ツボ」を押えるということだそうです。ことに季節の変わり目の「初秋」などは、体自身がホッと「気を抜く」ことがあります。そのため体調を大きく崩しやすくなります。真夏よりも気候のよくなった「初秋」こそ皆様、お身体を大切に！！

森 ちか

喜怒哀楽

私は、森松に入社して、はや5年がすぎ、6年目に入っています。5年と言いましても本当にあつという間にすぎさつたように思います。ほんの一年ぐらゐのように感じるほどです。この5年間の間何をして来たか考えると別に何をして来たのかなあと思うことがありません。毎日、毎日、仕事に追われて時間だけが過ぎて来たような気がします。新入社員のみなさんを見ると、ういういしく、私もこんな時期があつたのかなあと思うほどですが、本当に好きで仕事をしている人は、ほんの少しの人だと思えますが、どうせやるなら、楽しんで仕事をしようと思ふようになりなりました。暗い顔して、仕事をするよりも、笑つて仕事をしたい物です。

「いやいや、やれば、いやになる」

「楽しんでやれば、少しは楽しくなる」

「苦しめば、後は、少しは楽になる」

「楽をすれば、後は、苦しくなる」

あと何年生きられるか、わかりませんが、一日一日を大切に、楽しむ気持ちを忘れずに、仕事に、遊びに、いい思い出をたくさん作つて行きたいものです。

吉岡 孝記

新しい仲間が

ふえました

この度、八月二十七日から森松産業(株)に入社した村田恒夫です。

まず、自己紹介をしますと、昭和三十四年二月十五日生まれで、血液型はO型です。趣味は音楽を聴くこと。愛知学院大学商学部経営学科卒業後、製造会社(品質保証課)に六年、税理士事務所にて四年半在職していました。資格は、税理士試験一部科目合格(簿記論・財務諸表論)です。残り三科目は、何年かかっても合格して税理士の資格を取得するつもりです。

森松産業(株)に入社して三週間がたちました。少し会社の雰囲気にも慣れましたが、まだまだ仕事は分からない事ばかりで、みなさんにご迷惑をかけています。その反面、一生懸命頑張れば何とかかなりそうな気もしています。經理の仕事は、あまり目立たないポジションですが、好きな職種ですし、やりがいのある仕事だと思えます。先輩方を見習って一生懸命頑張っていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

村田 恒夫



今、こんな本読んでます
「菅原道真」

阿部猛氏著

谷澤 享

菅原道真と言えば、私の覚えてる限り、「遣唐使の撤廃」「日本永代実録の選者」、それと、「学問の神」といったところか。

その他、いろいろ習ったが、記憶に残ってはいない。浪人時代、学問の神として、菅原道真に関わる神社へ、よく御参りにいったものだ。では、何故、菅原道真は、学問の神として、天神様に祭られるようになったのか、その辺を、中心に書いていこうと思う。

菅原道真の人生は、徳川家康や、織田信長のように波乱戸丈、ではなかった。

道真は、祖父・父・と三代続く学問の家に生まれた。(八四五)もちろん、彼は貴族である。学業に励み、十八歳で、学業、二十三歳で学業得業生となり、三十三歳で、祖父・父もなった事のある文章博士となった。博士になる事は、後の第一目標であった。三十六歳のとき、父、是善が死に、父の後を継いで管家廊下を、主宰することになる。管家廊下とは、当時の大学・国学へ入るための予備校といったところだ、私塾の卒業生の中に父の頃は、藤原佐世・橘広明・島田忠臣らが、道真の代で、藤原道明・藤原扶幹・紀長谷雄・橘澄清・藤原邦基・橘公統・平篤行・藤原博文らがいる。位階も従五位上まで順調に上がっていたが、四十二歳のとき讃岐守となり赴任する。讃岐守は、格としては、低くはないから、左遷ではないが、栄転ともいえない。この赴任は、都会育ちの道真には、少しこたえたにちがいない。何故、赴任なったかは、

私塾で優秀な文人があらわれ、朝廷に良からぬことをする者がいないとは限らない。との理由で、当時実権を握っていた藤原氏が行なったことだろう。(実際藤原氏は良からぬことをしていたのだが……)

赴任先で国司になった道真は、農民らと上手くやっていき、大きな反乱も起こらず、そこで多くの詩を作った。赴任は貴重な体験となったであろう。

帰京後、宇多天皇の元で位階は昇進した。いっぽう、学問の方も「日本三代実録」類聚国史を選進し、また用済みとなった遣唐使も撤廃へもちこんだ。そして五十五歳で学者としては、異例の右大臣にまで昇進した。その後、道真は左大臣藤原時平の陰謀で醍醐天皇に左遷され、ずるずると配流されるまでであった。

そこで、道真は、学問の神と言われるだけの頭を持ちながら、どうして当時、最も勢力と位階に問題であった、当時の朝廷は藤原氏が多数をしめており、菅原氏は学問の事しかいかなかった。それに菅原氏は数える程しか考えもなく、地位も低くかった。それから、道真の性格である。彼は、私の性格によく似ていて、与えられた仕事を一生懸命やるほうであったらうから、朝廷侵略など考えもしなかったらう。上をねらうには、他に人とは違った性格も必要である。

最後に、初めの問いの答えだが、道真が、死んでまもなく、時平に関する人々に、崇りがあったそう。それにもかかわらず、私塾の弟子やその他で道真に感他された人々にとって、道真は偉大な人、まさしく「天神」として、崇め奉られたそうである。

人間、良い事をたくさんすれば、必ず良いことが、返ってくる。私はそう信じたい。

今月の社内行事

10月3日 USAアキレス来社

7日 幹部会
七時半より

10日 体育の日

11日 加藤先生来社

12日 第二土曜日休み

17日 Y・M・S
担当・岩間係長
成瀬係長

18日 F・M・S
十八時より 4F

21日 生産会議
十八時より 4F

25日 経営会議
十六時より十八時

25日 営業会議
担当・山口部長
十八時半より

26日 第四土曜日休み
アメリカ研修出発
常務・田井村課長
安井課長

11月4日 帰国

四代目編集長挨拶

波紋10月号より社内報の編集長をさせて頂く事になりました。

突然、伊東編集長からいわれまして驚きましたが、指名を受けたからには頑張りたいと思っています。

私は、入社して4年目です。

入社時から編集部に入っていました。清書をしたり、クイズコーナーを担当していただけで、あとは伊東編集長や他の編集員に頼ってばかりいました。

6年前から一代目牧野編集長をはじめ、女性5人でスタートした「波紋」も今月号で76号となりました。以前の社内報を見ると、森松の歴史を感じます。

これまでの「波紋」の良さを生かして、重みのある「波紋」にしていきたいです。今後共、宜しくお願い致します。



水野陽子



クイズコーナー 《9月号の答え》

春 脳 災 □ 楠 針 型 □ の中に、水という字が入る漢字なら、正解です
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
日 月 火 水 木 金 土
正解者の方には商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

編集後記

そろそろ、秋本番に入り、肌寒くなって来ましたが、皆様どうお過ごしでしょうか？

気温の変化と共に、風邪や、その他の病気に、かかりやすくなりますので、体には十分気を付けて下さい。

この度、初めて編集後記を、書かせていただきました。季節というものをどう表現したらよいか、考えさせられました。言葉というのは、難しいもので、いい勉強になったと思います。仕事にも、言葉の表現を、気を付けたいと思います。

編集発行者
森松株式会社

発行責任者

水野陽子

平成3年10月1日
第76号